

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0272300641		
法人名	医療法人慶成会		
事業所名	グループホームすごう		
所在地	青森県南津軽郡藤崎町大字葛野字新岡元56-1		
自己評価作成日	平成22年10月16日	評価結果市町村受理日	平成23年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.aokaigoyouho.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0272300641&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成22年11月24日

(ユニット名 A棟)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・環境に恵まれ、敷地が広いこともあり、利用者はいつでも安全に散歩を楽しむことが出来る。
・母屋和室を使用し、誕生会・行事を行っており、自宅に居るような雰囲気を味わっていただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体が医療機関であり職員も准看護師2名を配置し、利用者の健康管理に配慮している。ホーム開設時の職員や勤務年数の長い職員も多く、最近では異動がないため、利用者との馴染みの関係が築かれている。ホームの理念の中の「真心を持って接する」に重点を置いたケアを心がけており、同法人系列のグループホームで1週間ずつ研修を行う等、職員一人ひとりがケアの向上に努めている。
また、日常的に利用者の希望に応じて散歩、買い物、ドライブ等、外で過ごせる時間を多く作り、地域の中でその人らしく暮らし続ける支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己外部 項目		自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>申し送りの際、理念が反映されているか確認している。</p>	<p>開設時の理念を職員全体で検討し、地域密着型サービスを反映した理念に作り変え、ホーム内の掲示や朝礼で唱和している。サービスの場面でも理念に立ち戻るものと認識し「真心をもって接する」を基本に日々のケアに取り組んでいる。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の住民として、町内会にも加入し、ホームの行事にも呼びかけて参加していただいている。</p>	<p>町内会に加入し、地域行事に参加したり、ホームの行事に地域の方の参加がある等、交流を図っている。また、ホームの行事にはボランティアの大正琴や日本舞踊を披露しているほか、体験学習、実務者研修の受け入れ等ホームを開放している。キャラバンメイトの資格のある職員によるサポーター養成講座の開催を検討中である。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>職員がキャラバンメイトとして地域に貢献していきたいと思っている。町内の中学校から体験学習の受け入れも行っている。</p>	/	/
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、活発な意見や質問が委員からだされ、意見を反映させている。</p>	<p>会議は2週間前に文書で参加を呼びかけ、2ヶ月に1回開催している。会議ではホームの状況報告や自己評価、外部評価の結果報告の他、メンバーから非常口の設置場所に関する意見が出る等、意見交換の様子を会議録に記録し、運営に活かすように取り組んでいる。</p>	
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議には、毎回出席いただき入居者の困難事例等相談に乗っていただいている。</p>	<p>会議には毎回、市職員か地域包括支援センター職員のどちらかが参加している。ホームのパンフレットを配布したり、自己評価や外部評価票を提出しているほか、利用者の家族関係の相談や市からは緊急措置入居の相談を受ける等、協力関係を築いている。</p>	

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	勉強会を通して、理解を深めている。現在、玄関は施錠をしているが、徘徊者がいるため一時的だと思っている。	「禁止の対象となる具体的な行為」のマニュアルに基づいて勉強会を行い、重要事項説明書にも緊急やむを得ない場合を除き身体拘束をしないケアを明記している。玄関にチャイムを設置しているが、無断外出する方に警察の協力が得られた事もあり、外出傾向のある利用者の安全のため家族の意向で施錠している。外出傾向のある方はサインを早めにキャッチし、一緒に外出し、気分転換を図っている。やむを得ず身体拘束を行う場合に備えて理由や方法、期間、経過観察等の記録を作成している。	無断外出傾向の利用者がいるため施錠しているが、施錠による身体的弊害、精神的弊害を職員間で話し合い、安全に過ごせる工夫の取り組みに期待したい。	
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修・勉強会を通じて虐待に対する理解を深めている。			
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	社会福祉協議会の職員の協力を得て、内部研修を行っている。			
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には詳しく説明して、納得していただいている。			
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には、意見・要望が遠慮なく言えるような雰囲気にも努めている。	日頃から利用者、家族と話しやすい雰囲気づくりに努めており、「小遣いが無くなった」「退院後のリハビリを続けてほしい」等の意見が出され、事実確認や話し合いで解決している。健康状態や受診状況はホーム便りや電話や面会時に、金銭管理は出納帳で確認し、事業所内外の苦情受付窓口は重要事項説明書に掲載している。		

自己 外部		項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回全体会議を設け、運営・利用者の受け入れに反映されている。	職員は月一回の職員会議や日常的に意見を言える環境が整っており、職員からの意見として「エアコンの設置」や「厨房担当者の効率について」等が出され、運営に活かしている。また、職員の定着率が良く、異動もほとんどないことから利用者と馴染みの関係づくりが出来ている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい等、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則により守られている。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員を対象に研修に参加し、研修後には報告を行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	2ヶ月に1回、町内の同業者と意見交換会を行っている。			
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思い・ニーズを理解し、本人に安心感を与えるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望やニーズを聞き出し対応ができるように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要であるものを見極め、柔軟に対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に支え合い、共同生活が送れるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と家族と共に支えていくという関係を築き、努めていきたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前から、馴れ親しんだ場所・知人との、関係は継続していただけるように努めている。	センター方式のアセスメントシートを活用したり、日々の会話から馴染みの人や場所を把握しており、知人の訪問や手紙のやりとりの支援を行っているほか、郵便局や馴染みの店での買い物等に同行している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	思いやりの気持ちが持てるように、孤立者がいないよう働きかけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られる時には、いままでの情報提供を行っている。		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活で、本人の思いを把握できるように努めている。	センター方式のアセスメントシートにより入居時や介護計画の見直し時、日々のケアを通して思いや意向の把握に努めている。また、意向の把握が難しい場合は言葉以外の表情やしぐさから汲み取るほか、職員の気づきや家族からの情報収集に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から生活歴、個性等の情報を得て、これまで関わってきた事業所からも情報をいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を通し、体調の変化に注意し、観察している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員でカンファレンスを行い作成している。	センター方式のアセスメントシートや利用者一人ひとりの担当者からの気づきや医師の指示や家族の情報をもとに作成し、カンファレンスでケース検討、モニタリングを実施している。計画は6ヶ月毎にモニタリング、見直しを行っているが入院や希望の変化時には再アセスメントを行い状況に応じた見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録は日常の様子・言動を記録し、職員は情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターの協力が得られ、情報交換しながら、支援に役立つようにしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を継続している。受診は殆ど職員が介助し、結果は報告している。	入居時のセンター方式のアセスメントシートから受療状況を把握し、継続受診としている。歯科医の訪問診療の他、眼科、耳鼻科、泌尿器科等の他科受診を支援し、職員が送迎している。受診後は家族に電話や面会時に報告し、状況により担当医から家族に直接説明がある等、常に共有を図っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各棟に看護職員を配置し、健康管理に努めている。夜間の急変時にも、対応できるようにしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は状況を確認しながら、顔をだし、早期退院に、向けて関係者と話し合いをしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアは実施していない旨、入所時に説明している。急変時の対応も説明している。	重度化や終末期の対応をしていない事を入居時に説明し、医療が必要になった時には利用者、家族の話し合いで希望の医療機関を受診している。日常的な健康管理は看護職員が行い、医療機関と連携し、緊急対応マニュアルも整備されている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変には緊急対応マニュアルに従って対応できるようにしている。救急救命の研修は全職員が受講している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。災害時に備え3日間ほどの食料・飲料水は確保している。	昼夜を想定したホーム独自の消防訓練実施計画に基づき消防署と通報協力を得て、利用者と一緒に年2回避難訓練を行い、運営推進会議でも協力を働きかけている。年一回、消火器やスプリンクラーや避難通路の点検を行っている。非常用として3日分位の飲料水、食料や毛布等を用意し、賞味期限の確認も行っている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉づかいには十分気をつけ、排泄の失敗等には、さりげなく声掛けし居室で対応するように配慮している。	職員は法人系列のグループホームで1週間ずつ研修を行い利用者への対応方法を学習し、入居者への声かけや羞恥心に配慮した対応を心掛けている。呼称は「さん」で呼びホーム便りの個人の写真掲載や訪問者に対してプライバシーについて説明し、個人情報事務室で適正に管理されている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の状況に合わせて対応している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日が決められているが、それ以外は出来る限り個々の希望に沿えるように対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に任せている。			

自己 外部		項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使ったメニューに心がけている。食事の準備・後片付けは出来る範囲で手伝ってもらっている。	母体法人の栄養士が作成した献立で、利用者の嗜好が考慮された食事を提供している。利用者の出来る範囲内で下ごしらえや後片付けを手伝ってもらっている。苦手な食材の代替食や指の動きが不自由な方にはスプーンや箸、皿等、介護食器を使い職員と一緒に食事をし、さりげないサポートをしながら楽しく食事ができるように支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同系列の栄養士の指導を受けている。水分摂取量は記録している。魚の骨とり等、個々の状態に合わせて支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	見守りでうがい・義歯洗浄を行い、夜間は職員が消毒し管理している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレ誘導し排泄パターンを把握出来るように努めている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、記録している。立ち上がる等の利用者の排泄サインを見逃さず、時間毎の声がけや誘導により紙パンツから布パンツ、夜間はリハビリパンツとおむつははずしが成功している。声がけや誘導時は低い声で話し、失禁時は他の利用者に気づかれないようにトイレや居室に誘導し、支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に努めるが、下剤を増量する場合もある。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日・時間帯は決められている。入浴を嫌う方にはシャワー浴で対応している。夏期のシャワー浴は随時対応している。	ユニット毎に週2回の入浴となっており、入らない方には別の日に促したり、シャワー、足浴で対応している。利用者好みの湯温や順番等に対応し、脱衣場と浴室に一人ずつ職員を配置し、羞恥心や入浴中の安全に努め、気持ち良く、楽しく入浴出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠できるよう、日中の活動を促している。主治医より睡眠剤を処方されている方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容・副作用は十分理解している。個々に薬を手渡し、服用の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ等、得意分野での役割を持ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿えるように支援している。	外出を好む利用者が多く、天気の良い日は日課としてホームの周辺や町内の散歩、買い物に出掛けている。車椅子を利用している方も移動距離に配慮し、外出している。外出を好まない方は年間行事の外出時に弁当を購入し、ホームに帰ってから一緒に食事を摂る等の工夫をしている。また、家族にはホームの行事の参加や墓参り等の協力を呼びかけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	戸外に出かける際は、支払い等を行っている。少額のお金を所持している方もいる。預かり金に関しては会計担当者が管理し、家族の同意をいただいている。		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由にかけておけるようにしている。			
52 (19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度等）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは家庭的な雰囲気を保ち、光・室温には配慮している。	リビングには日常目にする新聞や週刊誌を置き、家庭的雰囲気を保っている。ソファやテーブルの間隔を広くとり、利用者が動きやすいように工夫している。日射しはカーテンで調節し、加湿器を設置し、温湿度は24℃、35%に設定してある。テーブルには植物を飾り、クリスマスリースの飾りつけ等で季節感も感じてもらっている。	空気の乾燥による感染症予防と冬場の適正湿度を保つため、業務日誌に温湿度の項目を設け測定時間と数値を記入し、温湿度調整することに期待したい。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の途中にソファを設け自由に過ごせるようにしている。			
54 (20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を持ち込んでいる方、シンプルに生活している方それぞれ個性を生かしている。	入居時の説明により位牌や馴染みの衣装ケース、テレビ、椅子等が持ち込まれ、高さの調節できるベッドの使用や家族の宿泊希望者には寝具の提供をしている。入居前の生活習慣から荷物が少ない方には利用者の意向によりカレンダーや行事の写真、好きなペットの写真を貼り、居室づくりを行っている。		
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレには目印付け等工夫をしている。			